（別紙４(1)）

１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	〒023-0401岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30番地		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372500496&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	財団法人　岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通３丁目１９番１号　岩手県福祉総合相談センター３階
訪問調査日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、高齢者総合福祉施設ぬくもりの家の併設施設として開設し「奥州市立まごころ病院」「健康増進プラザ悠悠館」と廊下でつながっており、保健・医療・福祉の充実が図られています。施設内には、地域交流スペースがあり地域の方々の作品の展示発表の場として提供されています。区内の知的障がい者通所授産施設「コスモスの家」の皆さんが喫茶コーナーを開設しています。また、区内3小学校の子供たちが「里孫」のボランティア登録をし、利用者との楽しい交流が続けられています。休日には、「里孫」たちの元気な声が響いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームぬくもりの家」は、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、高齢者生活支援ハウスとともに、「高齢者総合福祉施設ぬくもりの家」の一部を構成している。「高齢者総合福祉施設ぬくもりの家」は、まごころ病院、健康増進プラザ、公園などを配した「達者の里」の敷地内にあり、各施設との連携や、自然環境という点でも、きわめて恵まれた環境にある。また、施設ぬくもりの家には、多用途の地域交流スペースがあり、地域との交流が積極的に図られる構造となっている。また、グループホームは、食堂を中心に居室や談話コーナーが配置されている。食堂や廊下などの共有部分に、人形や花、書道などの利用者の作品が飾られ、明るい雰囲気を感じさせられる。さらに、地域交流は、近隣の3つの小学校との交流や災害対策における部落会との協調など、積極的に行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念」「ぬくもりの家基本理念」「GH介護理念」をパート職員を含めた全職員、月１回唱和している。また「キーワード」を朝礼時に唱和・実践している。	「ぬくもりの家」基本理念を、利用者の幸せ・地域の幸せ・私たちの幸せの3つの幸せとしており、パート職員を含めた全職員、月１回唱和している。また「キーワード」を連携と協働・健康と感謝・挑戦と進化とし、朝礼時に唱和・実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流スペースで地域の人達との関わりを持つ機会は多い。また隣接している悠悠館やまごころ病院での交流もある。小・中学校の運動会の見学・学習発表会への招待や里孫との交流が継続的に行なわれている。	地域交流スペースに地域のサークルによる「木彫りの面」が展示されている。展示物は1月ごとに変えている。小・中学校の運動会の見学・学習発表会への招待や里孫との交流が継続的に行なわれている。また、中庭ではお祭り等が行われ、地域の人達との関わりを持つ機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHの見学者や利用申込者、また在宅で認知症の家族を抱えている方達の悩みや相談等を受けアドバイス、支援に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価・外部評価の結果や事業計画・事業報告・利用者状況の報告をし、助言を頂きながら運営に活かしている。また利用者も会議に出席している。。	22年度から、利用者も会議に出席している。7月の会議に防災訓練の報告をし、部落会長から、参加した住民から車椅子の使い方がわからなくて困っていた等の意見を頂き、対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、随時相談をし区担当者、地域包括支援センター職員と情報を共有しサービスしている。	隣接する健康プラザ「悠々館」に市の健康福祉課や地域包括支援センターがあり、随時相談をし、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という全職員の共通認識で目配り・気配りをし、その人らしい生活を支援している。また職員研修会等で研修を行なっている。	職員が、「やってはならない介護集」「職員禁句集」などの小冊子を作成し、身体拘束をしない介護の実践に繋げている。また、事業所の玄関等に施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修会や職員会議で研修を行ない周知している。また、外出、外泊から戻った時には状態観察をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護委員が年2回来所し、利用者や職員からの話しを聞いてくれる。職員研修会で研修を行なっているので、必要な時に支援できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一連の説明を行い、理解を得ている。また疑問については丁寧に答えている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケート調査を行い、意見や苦情等について検討しサービスに反映している。家族からの要望で家族会は設けていないが、「小旅行」「敬老会」等に案内をし、聞く機会は設けている。	年1回アンケート調査を行い、意見や苦情等について検討しサービスに反映している。家族からの要望で家族会は設けていないが、「敬老会」等で懇談会を実施し、食事しながら施設側からパワーポイントで概況を説明し、家族の質問等に答える形をとっている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や随時出された意見や提案は、各委員会や運営会議等で聞く機会があり、要望等は活かされている。	法人の運営会議には課長以上が出席している。徘徊の利用者への対応について各事業所へ要請したり、施設の段差等の改善箇所の要望などの提案は、活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援がある。今年度から人事考課制度を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、階層別研修・職員研修会・出張復命会を計画的に行なっている。また外部研修も積極的に行なっている。パート職員も研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設視察研修、施設交換研修を実施した。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態や思いを聴くようにしてコミュニケーションを密にし、職員間の情報を共有しながら、安心と信頼につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族の困っていることをゆっくり聴いている。本人も一緒に施設内を見学し、GHの生活を見てもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターと情報を共有しながら可能な限り、柔軟に対応している。また総合施設としての特性を活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護理念」を実践している。畑作業や家事・季節の習わし等、様々な場面で利用者から教えられることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の写真を添えて、生活の様子を伝え、共に支え合えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問時は地域交流スペースや談話コーナーを利用し、周囲に気兼ねなく過ごしてもらう。またドライブ等で訪ねたりしている。	ドライブ等で自宅を訪ねたりしている。まごころ病院の受診時や隣接のデイサービス利用時等に知人や友人が面会に来たりする。地域交流スペースや談話コーナーを利用し、周囲に気兼ねなく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大切にしながら職員は情報を共有し「その時、その瞬間」を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域包括支援センターと情報を共有しながら併設のディサービスの利用者やヘルパーの利用、また母体施設の特養入所などの相談、支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で寄り添い一人ひとりの思い、意向について利用者の希望を把握している。意思疎通困難者には、特に関わる時間を多くもっている。	毎日の生活の中で寄り添い一人ひとりの思い、意向について利用者の話をよく聞くようにしている。要介護5で車椅子の利用者には、特に関わる時間を多くもっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族が分からない部分については、知人・友人が訪ねて来た時の会話からくみ取っている。また場面ごとに会話したことを記録しておく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌への記録の他、連絡帳を活用し情報の共有を図り、一人ひとりの生活を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が密に関わることで、思いや意向を汲み取っている。また状態の変化に臨機応変に対応し、全職員が共有し連携している。	22年2月に作成した「目標達成計画」にその人らしく暮らし続けることが出来る介護計画」を掲げ、各職員が得た情報を共有し、介護計画に活かし実践することとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・気分行動・バイタル・受診・食事量・水分量・排泄・入浴等を個別に記録し、情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ施設内にある各事業所の特性を活かした支援を行なっている。また廊下でつながっている病院や地域包括支援センター、奥州市健康福祉課との速やかな対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの受け入れや、地域の協力を得ての消防訓練や3小学校の児童との「里孫」交流を続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じているが、利用者は隣接の協力病院(内科・外科・整形外科・歯科・リハビリ)への受診となっている。また、それ以外の受診については状況に応じ対応している。	協力病院であるまごころ病院への受診が多い。精神科、皮膚科、眼科などまごころ病院にない診療科の受診については、家族が連れていくが、状況に応じては受診援助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービス、特養の看護師が利用者の健康管理を行なっている。また隣接する病院の医師、看護師、薬剤師、PT、歯科衛生師、OTと気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に職員が見舞い・回復状況の把握をしている。また、家族の話しを聞きながら主治医と話し合う機会を持ち、早期退院の支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が希望すれば、受け入れる方向で検討する。「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。	これまで看取りの例は無いが、本人・家族が希望すれば、受け入れる方向で検討することとしている。「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急研修として心肺蘇生、AEDの研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に通報訓練・非常召集訓練、消火器使用・屋内消火栓使用の訓練を行なっている。また地域住民と防災協定を結び、年1回「総合防災訓練」を実施している。	重度の利用者を含め、避難訓練（夜間も）を実施している。また、参加者には、車椅子での搬送を経験していただいた。なお、部落会（町内会）と防災協定を結び、災害時には相互に支援体制をとることとしている。岩手宮城内陸地震の際には、部落会長から、何かお手伝いできることありませんかと声を掛けられ嬉しかった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」の実践と「プライバシーの保護」「人権啓発」ビデオの研修をして一人ひとりの人格を大切にしている。	法人、ぬくもりの家、グループホームのそれぞれの単位で研修を行っている。また、法務局の職員によりビデオを使っての人権擁護に関する研修も行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(習字・生け花・歌・踊り・畑作業など)の選択やドライブのコース、外食のメニュー選びなど自分で選ぶことが出来るよう支援している。家族から情報を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間入浴を実施し希望に応えている。外食や出前による食事を楽しんでいる。また喫煙や飲酒にも柔軟に対応している。外部の演芸観賞にも出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思い出のある衣類を本人と選びながら最大に活かしている。また本人が選び不十分なところはさりげなくなおしている。月1回の訪問理髪があるが、顔なじみの美容室を利用することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑作業を通じて、季節の野菜を収穫し調理に活かしている。収穫した野菜を洗ったり冬越し野菜の準備を利用者と一緒に行なった。利用者の状態にあった仕事を継続的に行なっている。	敷地内の一画にある菜園で、利用者や職員により20数種類の野菜をつくり、食卓に供している。訪問時の昼食も、収穫した芋の子やカボチャを使用した献立であった。食事の準備や後片付けは利用者にもできる範囲で職員とともに行っており、食事中も明るく和やかな雰囲気であった。キッチンのカウンターも利用者が手伝いやすい仕様になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食チェックし記録している。不足している時は代替食や刻み食、トロミをつけるなど工夫している。また週1回、管理栄養師に検食簿を提出し助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	隣接のまごころ病院歯科の協力で年1回の歯科検診を行なっている。毎食後のうがいと就寝前の口腔ケア・義歯洗浄の支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サービス開始時や状態の変化により排泄チェック表に記録し排泄パターンの把握に努めている。すぐにおむつ使用せず、重度者にもトイレでの排泄介助を行なっている。	トイレの誘導はさりげなく行われている。また、排泄のチェック表は、利用者の目に触れないように配慮している。なお、トイレは5か所あり、使用しやすい配置となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、乳酸菌飲料を提供している。また普段から野菜を多く取り入れた食事を心がけている。排泄チェックをし個々のパターンを把握している。散歩や水分摂取に心がけている。下剤服用者はいない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中(14:00～15:30)と夜間(18:45～20:00)の入浴を一日置きに行なっている。本人の希望により、入浴の支援を行なっている。	本人の希望により入浴支援を行っている。一般浴が8人、シャワー浴が1人で、日中の利用者は4人、夜間の利用者は5人である。入浴を嫌う利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇活動(散歩・買い物・習字・生け花・裁縫・畑作業等)を行い、メリハリのある生活を支援している。不眠時は夜勤職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容が把握できるように個別のファイルで確認している。また個包にし氏名、服用時間・薬剤名を印字してもらい間違いのないように行なっている。薬の変更があった場合、記録に残し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な仕事や趣味などが発揮できるよう支援している。職員が畑作りの指導をしてもらうことがある。また季節の習わし事などを教えてもらうことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの小学校の運動会や開校記念日、コンサートに出かけるなどの支援をした。重度者に対してもリフト車を利用し、全員参加を実施している。日常的にドライブ・外食を行い、季節感を味わい、地域の人達との触れ合いを支援している。	小学校の行事や近くの創造文化センターでの無料のコンサートへなど、基本的に重度の利用者も含め全員で参加している。また、敷地内には広い「達者の里公園」があり、日常的な散歩のコースとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内自販機や売店、移動販売、公衆電話を自由に利用している。また喫茶コーナーの利用も行なっている。財布のしまい忘れがある方には複数の職員でさりげなく確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用される方には、かけ間違いのないよう確認し、職員はその場を離れるなどの配慮をしている。家族から電話があった時は取り次ぎする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柱時計や日めくりカレンダー、掘りコタツ、足踏みミシンなど生活感や季節感を取り入れている。また昔懐かしい食器を使用し元気な頃を思い出せるような工夫をしている。	共有空間には昔の家具や農具がさりげなく飾られ、懐かしい雰囲気がある。グループホームは、地域交流スペースの広い空間とつながり、さらに、特養や病院等の他の施設とも廊下でつながっており、孤立感は無い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが3ヶ所、廊下の長椅子、和室があり「その時、その気分」で過ごせる。観葉植物の水やりや水槽の金魚の餌やりで成長を楽しみながら落ち着いた雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の回り品を配置し、自宅と同じような居室を再現している。畳を準備し、希望があれば和室にも対応できる。	居室は、備え付けの家具やベッドを置かず、利用者の個性、好みによって身の回りの品々が配置されている。生活感が感じられる部屋が多い。掃除ができる利用者は、居室を朝夕モップ掛けをしている。共有の場所を掃除してくれる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は全てバリアフリーになっている。流し台、調理台は利用者が使いやすいように低くなっている。またオール電化で安全に配慮している。		